

「私たちからとっとりを変える！」

鳥取県×日本財団 共同プロジェクトキックオフ結団式



鳥取県×日本財団 共同プロジェクトの取組



みんなが支え合う社会づくり

① 中山間地域の生活支援

○住み慣れた地域で暮らし続けられる生活支援サービスを構築



② 住民参加型の健康づくり

○住民参加型の定期的な運動プログラムへの参加、地域における健康づくりの推進による健康寿命の引き上げ



③ 難病の子どもと家族の地域生活支援

○医療的ケアが必要な子どもと家族が孤立しない支援体制を作り、病院からのスムーズな移行と地域生活を支える



みんなが活躍できる社会づくり

④ 障がい者スポーツの拠点

○健常者と障がい者が一体となってスポーツ推進に取り組む障がい者スポーツの先進地を目指す



⑤ 地域交通のモデル

○県内を走るタクシーのUD化により、誰もが移動しやすい新たな公共交通モデルを構築



⑥ 働く障がい者の活躍

○工賃3倍増達成を通じて活力を持って暮らせる福祉的就労環境の改善を実現し、一般就労での就業者増加を目指す



プロジェクトの推進

⑦ 将来の担い手・リーダーの育成

○研修、視察等を通じ共同プロジェクトを将来にわたり推進する人材の育成を図る



研修プログラムへの参加者、提案研修募集中!

⑧ 鳥取助成プログラム

○NPOや地域おこし協力隊など将来の担い手の新たなチャレンジを支援し、地域における民間活動を活性化



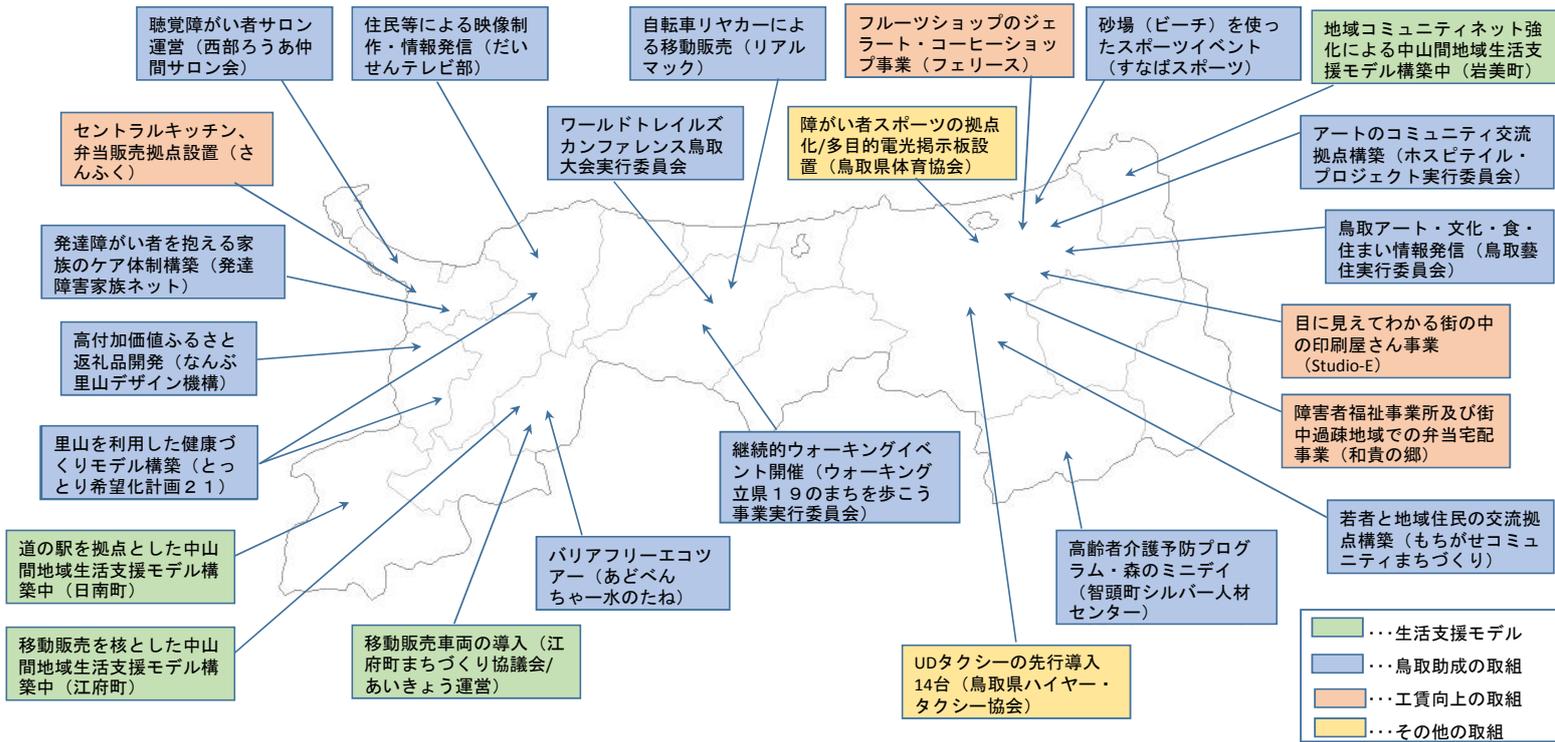
第2期助成プログラム(10/1開始事業)募集中!

⑨ 県の魅力発信

○ネットとリアル、双方で県の魅力を再発見し、価値を創造する取組を行う



鳥取県×日本財団 共同プロジェクトの取組状況



1 日本財団鳥取助成プログラム第1期助成について

<助成概要>

申請：19件

採択：14件

助成金額：37,520千円

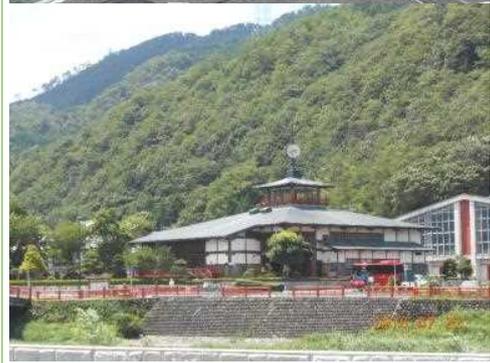
<審査の着眼点>

- ・ 地域資源を活かしながら、全県又は全国レベルで注目を集めそうな取組み、他地域へのモデル波及効果
- ・ 地域の中で生活支援拠点としての可能性等を有し、地域への好影響を与えていけそうな取組み
- ・ 従来にない新しい取組、これまでの取組の発展・拡充となる取組
- ・ 将来にわたり自立した継続的活動に向けた展望を持っている取組み等



地方創生は地域コミュニティ の創生から

もちがせパワーアッププロジェクト (任)もちがせコミュニティまちづくり



プロジェクトで目指すこと

用瀬に新しく出来るゲストハウス、カフェを基点とし、若者からお年寄りまでが交流することの出来る場を創出する。

- ① 交流拠点の運営
- ② 地元の特産品の磨き上げによる農業支援

誰に対してこういった価値を提供するプロジェクトか

用瀬に暮らす高齢者に対して、新しい交流の場を提供
若者に対しては起業するきっかけを提供
観光客に対しては宿泊と飲食機会を提供

事業概要

1. 空き家を活用したゲストハウスやカフェの整備
 - (1) 場所：鳥取市用瀬町用瀬208-3（ゲストハウス）
鳥取市用瀬町用瀬405-3（カフェ）
 - (2) 利用者数：100名/月
 - (3) 内容：
 - a. ゲストハウスやカフェを通じて若者と地域住民の交流拠点として地域資源を有効活用する
 - b. 域外との交流事業を行い、地域活性化に繋げる
 - c. 資金循環のモデル構築（カフェ、ゲストハウスの利用により1,000千円/月の売り上げ予想）

地域人材・地域産品を活用した高付加価値ふるさと返礼品の開発による高齢者・障がい者の働く場づくり (特)なんぶ里山デザイン機構



プロジェクトで目指すこと

地域産品を活用したデザイン性の高い「ふるさと返礼品」を開発し、ふるさと納税の増加と、業務に関わる高齢者・障がい者の働く場を創出する。

誰に対してこういった価値を提供するプロジェクトか

地域の高齢者、障害者に対する働く場の提供
ふるさと納税の増加による、町のイメージアップを図り、プロジェクトを持続可能なものにする。

事業概要

1. 高齢者・障がい者の雇用ポテンシャルの把握
 - (1) 内容: 町内組織・団体へのヒアリングを通じた業務内容の整理
 - (2) 目的: 域内での雇用創出
2. 南部町の特産品を生かしたデザイン性の高いふるさと返礼品の共同開発
 - (1) 目的: 地域資源の活用
3. 次年度への準備

「だいせんテレビ部」プロジェクト (任)だいせんテレビ部



**MOVE!
MOVIE
MOVE!**

まちの映像を全国へ
大山テレビ部
http://daisen-tv.com



プロジェクトで目指すこと

町民自らが映像番組制作に関わり、地域の魅力を発信する。

- ① 映像・番組制作を通じた情報発信人材の育成
- ② 告知・PR

誰に対してこういった価値を提供するプロジェクトか

町民に対して、情報発信を行えるスキルを身に付けることのできるプログラムを提供
番組・映像視聴者に対しては、町民ならではのユニークな切り口での情報を提供

事業概要

1. 映像制作ワークショップの開催(2回/月)
 - (1) 回数: 2回/月
2. 「大山開山1300年祭」に向けた中高生プロモーション動画の制作
 - (1) 参加者: 鳥取県大山町の中学生や高校生
3. 告知用ポスター、チラシ制作
 - (1) 部数: 10,000部
4. 町民制作によるケーブルテレビ番組(10本/年)
 - (1) 本数: 10本/年
 - (2) 内容: ローカル情報、地域課題解決、町内企業、集落、観光関連イベント
 - (3) 参加者: 社会人、子育てママ、高齢者

コミュニティをつくり、課題解決にとりくむ「移動式チャレンジショップ」事業 (任)リアルマック



プロジェクトで目指すこと

リヤカーを活用した「買い物難民」支援、移住者や若者の生業創出、地元農家の販路創出を行う。

- ①リヤカーによる移動販売
- ②情報発信

誰に対してこういった価値を提供するプロジェクトか

買い物難民となっている高齢者に対し、商品、情報の提供と困りごとの聞き取り等のサービスを提供。

移住者や若者に対して起業への足がかりを提供。

行商の商材を地元農家から仕入れることにより、地元農家の販路を創出。

事業概要

1. 自転車リヤカーによる移動販売事業の実施

- (1) 機器整備：自転車、専用リヤカー（各3台）
- (2) 場所：倉吉市明倫地区・成徳地区
- (3) 販売物：野菜、米、生花等
- (4) 対象者：対象エリア人口の約1/10
- (5) 回数：週3日 午前中9：00から12：00
- (6) 実施者：公募、移住者又は学生（5人程度）
- (7) 報酬：1年間は時給制1,000円/1時間

2. 情報発信

- (1) 内容：行政やメディアと連携



地域福祉の新しいかたち

バリアフリー(エコ)ツアー実現の可能性調査と検証実験 (任)あどベンチャー水のたね



プロジェクトで目指すこと

誰もが「安心」して「感動・感激」を体験出来るバリアフリーエコツアーの開発

- ① 聴覚障がい者向けエコツアー市場の調査
- ② 聴覚障がい者向けトライアルツアーの実施

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

主に聴覚障がい者の方を対象として、鳥取県の自然（江府町、大山町）の魅力を感じて頂けるようなプログラムを提供する。（ツアーの設計、ガイドの育成）

事業概要

1.市場調査

- (1)47都道府県にアンケート調査
- (2)全日本ろうあ連盟等にヒアリング調査

2.パイロットケースによる検証、評価

- 江府、大山、伯耆町の3地域でパイロットケースを実施
- (1)受け入れ体制（ガイド）の育成と評価
 - (2)バリアフリー対応の状況把握

3.報告書、マニュアルの作成

交流サロン実施事業 (任)西部ろうあ仲間サロン会



プロジェクトで目指すこと

聴覚障がい者のよりどころの確保

- ① 高齢聴覚障がい者交流サロンのバリアフリー化
- ② 交流サロンを活用した手話講座等の実施

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

孤立しがちな高齢の聴覚障害者が、気軽に集まり、交流できる場を提供
地域住民に開かれた場になることで、地域への理解促進も図る

事業概要

1.高齢聴覚障がい者サロン事業の運営に関わる拠点整備（バリアフリー化）

- (1)内容：サロンへのアクセシビリティを高めるため、以下のバリアフリー工事を行う。

a.聴覚障害者用屋内信号装置の設置	b.多目的トイレの設置
c.施設内の段差解消、手すり設置	d.給排水衛生設備工事
- (2)場所：鳥取県米子市両三柳
- (3)利用者：地域で暮らす聴覚障害者の方 ※サロン会員：23名（2016年4月末時点）
- (4)収容人数：20～30名
- (5)稼働日：月、木、金

智頭町シルバー人材センター 森のミニデイ「杉の郷」

(公社)智頭町シルバー人材センター



プロジェクトで目指すこと

地域の元気な高齢者が高齢者を支えることのできる「働く場」の創出

- ①体操プログラム等による体力増進
- ②バランスの取れた食事摂取プログラムによる健康管理

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

地域の元気な高齢者に対して、働く場の提供と生きがいを創出する。
介護を必要とする高齢者に対して、顔の見えるサービスを提供する。

事業概要

- 1.高齢者の介護予防プログラムへの有償ボランティアによる関わり創出
(1)参加者：10名程度を想定
(2)目的：高齢者の社会参加による介護予防・会貢献意識の醸成
- 2.体操プログラムの実施による体力向上
(1)目的：体力増進・介護予防
- 3.バランスの取れた食事提供による低栄養の防止
(1)目的：単身では難しい低栄養の防止

困難な発達障がい者をかかえる家族への支援事業

(任)発達障害家族ネット



プロジェクトで目指すこと

発達障がい者を抱える家族の心のケアと家族同士が支え合うことのできる環境づくり

- ①電話相談
- ②ピアカウンセラーの養成

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

発達障がいを抱えられる家族に対して、悩みや心配事を相談し、共有し合える環境を整えることで、家族の心理的な負担を軽減させる。

事業概要

- 1.電話相談事業
(1)対象者：対応困難な発達障がい者を抱えるご家族の方
(2)内容：社会福祉士の資格を持ち、専門的な知見を有するファシリテーターによる電話相談
(3)対応時間：8:00-22:00
(4)相談想定件数：30件程度/月（1件あたり30分～1時間程度の対応）
- 2.ピアカウンセラー養成講座の開催：
(1)内容：家族同士で心のケアが行えるようピアカウンセラーの養成講座を実施
(2)開催頻度：1回/月
- 3.活動報告書（200部）、会報（200部）の作成



スポーツとアートが地域を変える

すなばスポーツプロジェクト (任)すなばスポーツ



プロジェクトで目指すこと

砂丘を利用したスポーツ振興と地域コミュニティの活性化

- ① 砂丘における各種ビーチスポーツイベントの開催
- ② 砂丘に関わる関係機関との横連携

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

地域住民の方に対して、地元愛を取り戻すプログラムを提供
観光客に対しては、新しい観光コンテンツを提供

事業概要

1. 砂浜海岸、鳥取砂丘を活用した「すなば」での活動
 - (1) 内容：ビーチクリーン、ビーチサッカー、ビーチテニス、ビーチバレー、ビーチヨガ、砂丘しゃんしゃん、ウォーターサバイバル、すなばドッジ、すなばエアロビクス、スラックライン、すなば運動会などの開催
 - (2) 日時：6月から11月
 - (3) 開催頻度：15回/年
2. 行政や地元関係組織との連携を行つために必要な各種コーディネート業務
3. NHK、日本海テレビ等のメディアとの連携、HP、FB等による情報発信

鳥取藝住プロジェクト

(任)鳥取藝住実行委員会



プロジェクトで目指すこと

創造活動を重視する鳥取県のイメージ形成と情報発信の強化

- ①ウェブメディアの立上げ
- ②SNSを活用した日常的な情報発信

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

同種のテーマで活動している県内の団体や人に対する情報提供や支援プログラムを提供
県外のアートや移住に興味関心を持つ人達に対して、リアルな情報を提供

事業概要

1. 藝住に取り組む団体での全体会議の開催
(1)回数：3回/年 (2)目的：県内各地の取り組みや成果を共有する
(3)内容：情報共有と課題解決について議論を行う
2. 鳥取のアート、文化、食、住まい等をテーマにしたウェブメディア立上げ
(1)目的：鳥取に関わる情報を集約すると同時に、統一チラシ・ポスター・報告書等を作成し、
全国・世界に情報発信する。
3. 資料作成、配布
(1)統一チラシ(15,000部) (2)ポスター(300部) (3)報告書(2,000部)
4. SNSによる発信
(1)目的：フェイスブック等のソーシャルメディアを通じてイベント情報フェイスブック等ソーシャル
メディアによる日常的なイベント情報等の発信。
5. 鳥取大学地域学部（野田研究室）と連携した上記事業の運営

HOSPITALE PROJECT 人材育成プログラム

(任)ホスピタル・プロジェクト実行委員会



プロジェクトで目指すこと

中心市街地にある空き施設を活用し、アートと失われつつある地域の記憶のアーカイブ構築による新たなコミュニティづくりおよび地域アイデンティティの創出を試みる

- ①人材の育成
- ②地域資源の研究と保存

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

住民に対して、
①将来の地域の担い手を育成する
②地域にある歴史や記憶を改めて認識してもらうことで、地域に対する愛着や誇りを取り戻すきっかけを提供する

事業概要

1. アートを介したコミュニティづくりに関する交流拠点の設置
(1)内容：
a. プロジェクトルームの設置
b. 地域の文化事業に関する情報収集と公開
c. アーティストと地域住民との交流プログラムを実施
2. 座学や実習を交えた地域プログラム開発人材の育成
(1)内容：
a. ワークショップやイベント開催等
b. 市民参加型の地域資源再発見研究プログラム
c. メディアアーカイブ



みんなで取り組む健康づくり

鳥取県における健康増進プログラムの開発 (任)とっとり希望化計画21



プロジェクトで目指すこと

鳥取県の地域資源（里山や海）を活用した健康増進プログラムの開発と普及啓発

- ① プログラム開発
- ② 人材育成

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

県民に対して、地域の自然資源を活用した健康増進プログラムを提供
自治体に対して、県民の健康増進による医療費の抑制

事業概要

1. 鳥取県の地域資源を活かした健康増進プログラムの開発

- (1)内容：
 - a. 県内の活用フィールド（森林・海・川）の選定
 - b. 健康増進プログラムの検討と開発
- (2)期間：2016年7月～11月
- (3)場所：鳥取県大山町

2. インストラクターの養成モデルの開発

- (1)内容：
 - a. モデル参加者の募集と選考
 - b. 養成プログラムの検討と開発
 - c. 養成講座の実施
 - d. 参加者アンケートの実施とフィードバック
- (2)期間：2016年7月～11月
- (3)場所：鳥取県内

ワールドトレイルズカンファレンス鳥取大会

(任)ワールドトレイルズカンファレンス鳥取大会実行委員会



プロジェクトで目指すこと

国際ウォーキングイベント「ワールドトレイルカンファレンス鳥取大会」を通じたウォーキングによる心身の健康を考えるきっかけを作る。

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

参加者に対して、年齢や障がいのあるなしに関わらず、気軽に参加できるウォーキングプログラムを提供
自治体に対して、参加者のデータを収集し、今後の健康政策に活用し得る情報を提供

事業概要

1. 記念講演会の開催
(1) 日程：2016年10月15日 (2) 場所：鳥取県立倉吉未来中心（倉吉市）
(3) 講師：三浦雄一郎(登山家) (4) 参加者：約800人
2. 「らくらく&わんぱくウォーク」の実施
(1) 日程：2016年10月16日 (2) 場所：東郷湖周辺（湯梨浜町）
(3) 参加者：約100人
3. ノルディック・ウォーク講習の実施
(1) 日程：2016年10月15日、16日 (2) 場所：8会場（倉吉市、湯梨浜町、三朝町、琴浦町、北栄町）
(3) 参加者：約80人(各会場約10人)
4. まちの保健室の実施
(1) 日程：10月15日、16日 (2) 場所：2会場（鳥取県琴浦町、湯梨浜町）
(3) 参加者：約200人（各会場約100人）

ウォーキングイベントの実施

(任)「ウォーキング立県19のまちを歩こう事業」実行委員会



プロジェクトで目指すこと

日常的に気軽に参加することのできるウォーキングイベントを実施し、県民の健康に対する意識喚起と行動変容をはかる。

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

日頃歩く習慣のなかった方が、ウォーキングをはじめのきっかけをつくる。

事業概要

1. ウォーキングイベントの開催
(1) 内容：
a. キックオフイベントの開催（9月10日）
b. ウォーキングイベントの開催（9月10日～11月20日）
1 チーム3名で、チーム毎の歩数のランキングを競い、上位チームを表彰、特典を付与
c. 表彰式（12月予定）
(2) 日程：2016年9月10日～11月20日
(3) 参加者：約500名

2 働く障がい者の活躍 工賃向上モデル助成について

福祉就労環境の改善による工賃3倍増達成を通じ、働く自信をつけた障害のある方の一般就労者数1,000人以上の増加を目指す。

事業内容の見直し、新事業の展開などを通じて工賃向上、就労環境の向上を図る福祉事業所の取組を支援。

<第1期工賃向上モデル採択事業概要>

採択：4件

助成金額：107,620千円

<審査の着眼点>

- ・市場ニーズをとらえ、競争力を持った事業内容の実施を通じ、利用者の工賃向上に繋がる取組み
- ・着実な資金計画に基づいた、継続的な利用者の工賃向上、意欲向上に繋がる取組み
- ・地域資源や事業所の持つ特性を活かし、他の事業所、地域等へのモデル波及効果が期待できる取組み

目に見えてわかる街の中の印刷屋さん事業 (Studio-E)



プロジェクトで目指すこと

新たな印刷市場の確保による工賃の向上と施設利用者の就労技術向上を図る。

現工賃 25,354円 ⇒ 工賃予測 48,600円

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

商業印刷用カラープロダクションプリンターの導入及び新店舗の改修により、目の前でできあがる印刷物の楽しさ等、万人が楽しめる「街のデジタルショップ」としての新たな魅力の提案を通じ、受注範囲の拡大による新たな市場確保と、施設利用者の就労スキルの向上を図る。

「おべんとうの四季」のおまかせ弁当宅配事業 (和貴の郷)



プロジェクトで目指すこと

新たな宅配弁当市場の確保による工賃の向上と施設利用者の就労技術向上を図る。

現工賃 31,988円 ⇒ 工賃予測 58,400円

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

宅配弁当を製造する新店舗の改修を行い、新たに食事サービスを提供する障がい者福祉サービス事業所との連携、今後増加が予想されるまちなか過疎地域での弁当宅配等を通じて、新たな市場確保と高齢者の生活支援、施設利用者の就労スキルの向上を図る。

ジェラート・コーヒーショップ事業 (フェリス)



プロジェクトで目指すこと

既存フルーツショップの新たな魅力づくりを行い、新たな顧客確保による工賃の向上と利用者の就労技術向上を図る。

現工賃 12,557円 ⇒ 工賃予測 41,700円

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

既存のフルーツショップの隣に、新たに新鮮なフルーツを使った拘りのスイーツ（シフォンケーキ、ジェラート）とエスプレッソコーヒーに特化した店舗を設置し、年間を通じた新たな顧客獲得と施設利用者の就労スキルの向上を図る。

総菜製造・卸販売・弁当デリバリー事業 (山陰福祉の会さんふく作業所)



プロジェクトで目指すこと

新たにセントラルキッチン事業を展開し、新たなサービス業展開による工賃の向上と施設利用者の就労技術向上を図る。

現工賃 H28より事業開始 ⇒ 工賃予測 58,000円

誰に対してどういった価値を提供するプロジェクトか

地域の飲食店や居酒屋等への下処理した食材提供サービス、総菜及び弁当の製造・宅配サービスなど、新たにセントラルキッチン事業を展開し、新たなサービス業展開による工賃の向上と施設利用者の接客、就労スキルの向上を図る。

3 工賃日本一の達成に向けた事業所協議会の設立

県内の各福祉事業所は、目標とする工賃の確実な達成と障がい者の活躍の場創出を目的に、連携した取組の推進に向けて協議会を設立。

事業所で製造する製品、実施サービス、ネットワーク等の相互活用、広域利用などの連携に取り組む。

まずは、日本財団の支援を受けて取り組む事業展開において事業所間の連携を強化し、全国的なモデル事業となることを目指すとともに、県内事業所の牽引役として積極的な取組を行う予定。

<工賃日本一達成事業所協議会>

設立年月日：平成28年7月25日

会長：河村仁志（和貴の郷代表理事）

会員：県内の各福祉事業所

事務局：鳥取県障害者就労事業振興センター内